

平成 30 年度 第 1 回二宮町総合戦略評価委員会 議事要旨

開催日時		平成 30 年 10 月 15 日（月） 9:30～13:10		
開催場所		二宮町町民センター 3 階 3 B クラブ室		
出席者	委員	出席 7 名 寺岡 護 委員、平田 光枝 委員、片岡 宇一郎 委員、 後藤 伸 委員、脇 治 委員、樋口 徹雄 委員、 神保 智子 委員 欠席 0 名		
	町	政策担当参事		
	事務局	政策総務部企画政策課 3 名		
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人	
会議次第	1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 議 題 (1) 「二宮町総合戦略」における施策及び評価シートの変更 について (2) 二宮町総合戦略評価に対する意見等について (3) その他 4. 閉 会			
配布資料	資料 1 二宮町附属機関が開催する会議の公開及び会議録 の公表に関する要綱 資料 2 施策の変更について 資料 3 評価シートの変更について 資料 4 「二宮町総合戦略」における体系図及び数値目標・ K P I の各年度の到達目安について 資料 5 総合戦略評価シート（平成 29 年度実績） 参考資料 1 二宮町総合戦略評価委員会設置要綱 参考資料 2 二宮町総合戦略評価委員会委員名簿 参考資料 3 総合戦略政策評価シート（平成 28 年度実績）			

【議事要旨】

(1) 「二宮町総合戦略」における施策及び評価シートの変更について

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

- 評価システムを見直し、評価のスケジュールを早めたのは、予算に反映するためなのか。
- これまでに判明した課題などを踏まえ、町民に取り組みや成果が分かりやすくなるように見直した。予算への反映についても考慮している。
- 平成30年度の事業については、予算へどのように反映するのか。
- 今回の評価では、平成30年度の事業は対象外であるが、予算の査定をする上では、二宮町総合戦略評価委員会の意見やその他行政評価の結果等を踏まえていく。
- 評価シートは他の自治体はどうなっているのか。
- 国から示された統一的な様式はないため、各自治体によって異なっている。

(2) 二宮町総合戦略政策評価に対する意見等について

① 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり

・二宮町総合戦略評価委員会の評価「地方創生に効果があった」

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

- 公共施設再配置・町有地有効活用実施計画は策定され、方向性は示されているものの、今後の具体的な取り組みは見えてこない。また、駅前町民会館跡地は、駅前の目立つ町有地が有効に活用されていないことから、評価はできない。
実施計画に役場庁舎や学校が外されてしまっているが、それらも含めて公共施設として整合性を図るべきである。
- 実施計画に基づき、駅前町民会館を廃止し、暫定的には駐車場として活用するが、その後は役場庁舎の移転や町民センターの方向性も踏まえ、駅前の全体の活用を検討していく。今回の評価では、平成29年度の数字の変化は見えないが、平成30年度の実績は、駅前町民会館の廃止により動きは出てくる。
また、学校に関しても、統廃合等の検討会が始まっているので、一定の方向性が決定すれば、実施計画にも反映していく。
- KPIである「公共施設の総延床面積」の目標値は、今後の財政状況を考慮すると低すぎるのではないか。もっと削減していくべきである。
- 公共施設再配置・町有地有効活用実施計画では、策定方針により掲げた今後

50年間の削減目標の35%に基づいて、10年間の短期目標として2%の削減を目指している。二宮町総合戦略では、実施計画との目標値の整合性を図っているため、KPIの目標値を見直すことはできない。

- 「東大跡地・国立小児病院跡地の検討」では、東大跡地は今後の活用について動いているが、国立小児病院跡地は凍結したまま何も動きがなく、また、町の方向性が見えてこない。活用予定がないのであれば、縮小する方向性で検討すべきである。
- 国立小児病院跡地は、子どもの館構想が凍結したままとなっている。平成29年度に、「子どもや地域に貢献できる活用方法」をテーマとして、マーケットサウンディング調査を行ったが、あまり意見が得られなかった。また、二宮海岸の国の直轄化事業での資材置き場としての案も出たが、活用には至らなかった。町の財政状況を考えると、民間で活用してもらう方が好ましいとの考えはあるが、現状は厳しい。
- 活用していない施設や土地は、利用目的が定まっていなければ売却すべきではないか。
- 公共施設の適正な維持は、一概に何が適正な規模であるか定義が出来ないため、他の地域でも苦慮している。計画の策定は、前進していると捉えられるため評価できる。
- 一連の流れを聞くと背景は理解できるが、町民には理解しづらい。
- 二宮町総合戦略の町民アンケートはどのように行っているのか。
- 毎年5月頃に無作為抽出した1,000名の町民に対して実施しており、平成29年度の回収は365票、平成30年度は382票となっている。
- 総合戦略を策定した時は、町で色々な計画を策定しており、策定に携わった町民が、計画に示された今後の方向性に期待感を抱いたためアンケートの結果が高くなった気がするが、時間が経過し見えてこない現状に対して失望感が高まったので、評価が下がっているのではないか。
- 施策の方向性は良いが、ワークショップなどによる町民の意見が上手く反映できていないのが課題である。
- ◎ 2次評価と同じ評価でよろしいか。
(異議なし)

② 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり

・二宮町総合戦略評価委員会の評価「地方創生に相当程度効果があった」

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

- 地域の通いの場のシステムは評価できるが、担い手の不足や高齢化などの課題を考えると持続可能なのか疑問を感じる。新たな担い手となる若い世代との

考え方の違いは大きく、アプローチの方法は重要となる。持続可能な組織やシステムを検討していくべきである。

- 通いの場合は、「オール地域」で様々な人が関わり合うことで取り組みが進んでいる。今後、活動を継続し、活性化するためには、様々な人が主体となって取り組めるよう、地域全体が参加しやすいシステムを構築し、また新たな人も受け入れられる体制づくりが重要である。まず第1歩前進したということは評価できる。高齢者のライフスタイルの変化にも対応した活動に繋げてほしい。
- 担い手の確保の取り組みとして、今年度から地域の支え合いの大切さを学べる研修会なども開催している。
- ◎ 2次評価と同じ評価でよろしいか。
(異議なし)

③ 地域コミュニティの醸成支援

・二宮町総合戦略評価委員会の評価「地方創生に効果があった」

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

- 評価で一色小学校区が触れられているが、二宮町総合戦略のアンケート結果で一色地区の町民の意見を抽出することはできるのか。一色地区の取り組みの効果を一色地区の住民のアンケート結果により得られれば、他の地区でも推進していく根拠となるのではないか。
- 地域コミュニティの醸成は、一色小学校区だけではなく町内全域で取り組むべきであるため、全体の意見を評価にすべきであると考えます。
- 一色小学校区地域再生協議会は、意欲的に取り組んでいるのは分かるが、今後予算面や担い手の確保の課題からすると継続していけるのか。
- どの地区も地域の課題を抱えており、地域で課題解決するための体制作りを進める必要がある。一色小学校区は先進的に取り組みを始めているため、地域コミュニティ醸成のモデル地区としての位置づけとなっている。今後、他の地区でも取り組めるように町でも支援を行っていく。
一色小学校区は、「第2層の地域福祉協議体」や「コミュニティ・スクール」の取り組みを始め、その取り組みは他の小学校区でも広がりを見せている。
ただし、そうした一連の動きが町民に対して見えてないことが課題である。
- ◎ K P I 「地域コミュニティに対する町民の評価 (加重平均)」の分析で、表記されている「取り組みは行っているものの町民にはその姿がよく見えずに、理解が得られていない状況にあると考えられる。」は、一色小学校区地域再生協議会の取り組みだけではなく、その他の実施計画事業の取り組みも含まれているのか。
- その通りである。行政が行っている取り組みを町民に上手く発信できていな

いことが課題である。

- ◎ 2次評価で「K P I達成に有効であった」と判断した理由は何か。
- 町も構成メンバーの一員として支援し、一色小学校区地域再生協議会は、取り組みを町全体に広げていけるように取り組んでいる。課題はあるものの、取り組みが少しずつ前進しているため、一定の評価ができると考えている。
- 地域の取り組みやその成果を情報発信するのは行政の責務である。
- 地区長も、町と一体となってコミュニティ・スクールの取り組みを広げようと地域に情報を周知している。なかなか浸透するには難しいが、少しずつでも努力することが重要である。
- 情報の伝え方を検討する必要がある。活動内容だけではなく、活動への意欲をもってもらえるよう、相手に響く言葉を発信していくことで、多くの人を巻き込んでいける。行政は、身近で支援している立場として状況を理解しているはずなので、もっと情報発信方法を見直すべきである。
- 今回の評価では、「一色小学校区地域再生協議会の取り組み」を評価するのか、もしくは「一色小学校区地域再生協議会の取り組みが町全体に広がっていない」ことを評価しないのか、評価視点を絞る必要がある。様々な課題はあるが、一色小学校区地域再生協議会の取り組みを評価したらどうか。
- 取り組み内容だけではなく、予算や費用対効果についても今後検証していく必要がある。
- 実施計画事業「住宅ストック管理流通活用事業」では、シルバー人材センターと連携して、空き家の清掃や管理などの事業も行っているのか。また、行政が空き家対策等の積極的な情報周知を行っているのか。
- シルバー人材センターでは空き家の清掃等を行っており、町に空き家に関する相談があった場合、担当課よりシルバー人材センターを紹介している。また、昨年度から年1回の納税通知を送付する際には、空き家対策計画などに関する情報も周知している。
- ◎ 2次評価と同じ評価でよろしいか。
- 施策の効果としては疑問であるが、今回は一色小学校区地域再生協議会の取り組みを踏まえた上で、「地方創生に効果があった」で良い。ただし、今後、町は取り組みを町全体に広げていけるように、積極的に取り組むべきである。
- 評価は「地方創生に効果があった」で良いが、意見の中で、住宅ストック事業についても成果や課題について言及すべきである。
(異議なし)

④ 災害や犯罪に備える地域づくり

・二宮町総合戦略評価委員会の評価「地方創生に効果があった」

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

- 平成 29 年度にマニュアルを策定した地域はどこか。定住を検討する上で、防災意識の高い地域というのは魅力となるので、もっと取り組んでいくべきである。また、災害は様々な想定が必要となるため、随時見直しを図るべきである。
- 平成 29 年度は、緑が丘地区でマニュアルが策定された。町から雛形が示されているため、現在地区ごとにマニュアル策定に向け動き出しているところである。マニュアルには地震被害だけでなく、近年多発する風水害被害についても盛り込んでいる。
- 各地区の取り組みを見ると、平成 31 年までに目標値である 20 地区で策定ができ、目標値は達成できると思う。
- 自主的に防災に関する資料を収集したことがあるが、行政内部での連携が図れておらず、また地区から収集している情報も有効に活用されていない。
- 地域によって、防災の取り組みに対する温度差がある。
- ◎ 2次評価と同じ評価でよろしいか。
(異議なし)

⑤ 「にのみやLife」の提案と発信

・二宮町総合戦略評価委員会の評価「地方創生に相当程度効果があった」

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

- 転入増加の要因が「シティプロモーション事業」であれば、効果が出ている事業として、予算を手厚くするなどもっと推進してはどうか。ただし、単に予算を増やすのではなく、費用対効果があるものに対して投資する必要がある。
- シティプロモーションの成果は評価できるが、移住してもらっただけでなく、上手く空き家の活用へ誘導することも重要である。
- 住宅供給公社への転入状況は増加しているのか。
- 入居者もいるが退去者もある程度いるため、増加していない。
- ◎ 内部評価で、KPI「『にのみやLife』PRのHP閲覧数」の基準値の見直しとの結果がでていますが、その点について意見はあるか。
- 閲覧数が増えているのであれば、もっとHPに予算を投入するべきである。ただし、紙媒体でのPR方法などもあるので、二重投資にならないように予算のバランスを考える必要がある。
- 町のHPは分かりづらい作りになっている。欲しい情報がなかなか得ることができない。KPI「『にのみやLife』PRのHP閲覧数」を上げるだけでなく、見やすいコンテンツ作りをするべきである。
- KPI「空き家バンクに登録された空き家の利活用件数」の目標値が少ない

ため、K P I を見直す必要があるのではないか。

- 現在空き家バンクの登録数が1件しかなく、現状目標値を上げることはできない。空き家バンクに登録したいとの持ち主の意向が少ない。
- 不動産業者が管理する空き家の活用状況を、K P I として把握することはできないか。
- 不動産業者が管理する空き家状況は日々変動するため、K P I に設定するためには、適正な指標や実績を把握するための基準を設定するのが難しい。
- 地区長は、地域として把握している空き家情報を町に定期的に提供している。
- ◎ 2次評価と同じ評価でよろしいか。また、K P I 『にのみやL i f e』 P R のHP閲覧数」の基準値の見直しも同じ評価でよろしいか。
(異議なし)

⑥ 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり

・二宮町総合戦略評価委員会の評価「地方創生に効果があった」

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

- 町民アンケートではどのように設問がされているのか。
- 各項目の重要度と満足度を、1から5までの段階評価から選択してもらっている。各項目についての詳細な説明などはしていない。
- K P I で町民アンケートによる数値を設定しているものは、アンケートでの設問方法でだいぶ変わる。K P I 「文化・芸術活動に対する評価(加重平均)」は、今回数値が低かったからと言って簡単に削除するものではない。
- ◎ 内部評価では、K P I 「文化・芸術活動に対する評価(加重平均)」の見直しとなった理由は何か。
- 町民の満足度が低いだけでなく、重要度も低い結果であったことから、重要度が低い施策を推進するよりも別の施策に力をいれるべきではないかとの結論から「K P I の削除」となった。
- K P I 「生涯センター・ラディアンの施設稼働率」では、稼働率を高めるためには利用料金を下げることも検討するべきである。
- 「みんなの二宮を知ろう・学ぼうプロジェクト」の成果として、移住促進事業のどの取り組みが、効果として繋がっているのかを分析する必要がある。
- 平成30年度に、転入者を対象に転入に関するアンケートを実施している。その結果により、効果がある具体的な取り組みが見えてくると思う。
- 情報発信の積極的な姿勢が必要である。特に、観光の分野は町外の方が目にする機会が多いので、観光協会も含め積極的に情報を発信するべきである。
- ◎ 2次評価と同じ評価でよろしいか。
(異議なし)

⑦ 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成

・二宮町総合戦略評価委員会の評価「地方創生に効果があった」

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

- K P I 「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合」の基準値・目標値を見直した場合に数値はどうなるのか。
- 数値は把握していない。「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合」では、「当てはまる」だけでなく、「どちらかといえば当てはまる」も含める方がより意向を汲み取ることができると考えたため、K P I の見直しを検討した。
- 見直し前のK P I のままであると、K P I が達成していないとの評価になるのではないか。
- 施策には2つのK P I があり、もう一方の「これからも運動を続けたいと思う児童生徒の割合」がK P I の達成に至っていたため、内部評価で「地方創生に相当程度効果があった」になった。
- 実施計画事業「将来を見据えた学校のあり方検討（小中一貫教育）」の行政評価がない理由は何か。
- 小中一貫教育の検討は、実施計画事業「コミュニティ・スクール導入促進事業」と一体となって進めている事業であり、予算がその中に含まれているため、予算がない事業として評価をいれていない。
- 一色小学校区地域再生協議会の取り組みは、町の取り組みではなく、地域の取り組みであるため、施策評価として「地方創生に相当程度効果があった」は高すぎる評価である。
- コミュニティ・スクール以外にも、支援教育や教育相談などの取り組みである程度の成果があると判断し、「地方創生に相当程度効果があった」と内部評価になった。
- 特色ある学校教育は何を示しているのか。
- 他自治体との教育の優位性を示しているのではなく、自然環境、地域との連携、英語教育など「二宮らしい」魅力を強みとした学校教育ということを指している。
- ◎ 2次評価と同じではなく、「地方創生に効果があった」という評価にしてよろしいか。
(異議なし)

⑧ 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目ない支援と環境づくり

・二宮町総合戦略評価委員会の評価「地方創生に相当程度効果があった」

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

- 転入者の内訳では、子育て世代の比率はどうなっているのか。待機児童数が少ないことは、二宮の強みとなるのではないか。
- 各世代の比率を比較して、子育て世代が特出してはいない。
- 実施計画事業の「子育て世代包括支援センター」と「地域医療連携推進事業」の行政評価が「B」になっている理由は何か。
- 子育て世代包括支援センターは、周知方法や相談体制などに課題がある。また、地域医療連携推進事業は、緊急時に小児科の受入体制が町内に構築出来ていないなどの課題を抱えているため、「B」の評価となっている。
- 「子どもを安心して預けることのできる保育・子どもの居場所づくりプロジェクト」の成果に、「学童保育が保護者運営から民間委託に変更になり、保護者の負担が激減した」との表記があるが、公費投入として得られた効果として良い事例である。
- 様々な課題がある中で、「地方創生に相当程度効果があった」とするのは懸念がある。
- 課題はもちろんあるが、やむを得ないような課題も見受けられるため、その点を考慮すれば評価しても良いのではないか。
- ◎ 2次評価と同じ評価でよろしいか。
(異議なし)

⑨ 子育てと仕事の両立の推進

・二宮町総合戦略評価委員会の評価「地方創生に効果があった」

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

- ◎ K P I 「男性の家事・育児時間」と「役場男性職員の育児休業取得割合」の実績値をみると、確実な前進をしているのに対して、2次評価が「地方創生に効果があった」と低い評価になっている理由は何か。
- 「男性の家事・育児時間」は、平成28年度の実績では基準値より低下しているため、2年間で基準値から11分しか上昇していない。その変動から推計しても、平成31年度までに目標の達成には至らない可能性があるため、低い評価とした。
また、「役場男性職員の育児休業取得割合」に関しては、町の「二宮町次世代育成支援対策及び女性活躍推進法に関する特定事業主行動計画」の目標値の50%との整合性を図り、もう少し高い目標値をもって推進していくよう体制を整えたため、実績を成果として評価しなかった。
- ◎ 2次評価と同じ評価でよろしいか。
(異議なし)

⑩ 地域にしごとを生み出し、資金を循環させるしくみづくり

・二宮町総合戦略評価委員会の評価「地方創生に効果があった」

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

- 二宮町での起業・開業支援プロジェクトの実施事業「商工業振興対策事業」の行政評価の結果が「B」であるのに対し、2次評価が「地方創生に非常に効果的であった」となっているのに違和感がある。
- 2次評価では、K P Iの達成状況により判断しており、この施策ではK P I「町内起業・開業件数（商工会加入件数）」の目標値が大きく達成されたため、「地方創生に非常に効果的であった」との評価となった。ただし、商工会加入件数の増加が、プロジェクトの達成に結びついていない。なお、町内起業・開業件数を把握することが難しいため、現在のK P Iに設定した経緯がある。
- 「商工会加入件数」ではなく、「商工会加入件数（うち町内起業・開業件数）」としてはどうか。
- 商工会では、商工会加入件数の中で、どの店舗が起業・開業しているのか件数を把握している。
- 商工会と町の連携が低いと感じている。施策を進めるためには、もっと連携すべきである。
- ◎ K P Iの代替案はあるのか。
- 今のところ代替案はない。
- ◎ 商工会加入件数と退会件数（廃業）の比率を比較して、プラスに転じていればその分の新たな雇用を生み出していることの根拠につながるのではないか。全体を捉える為には、起業・開業件数だけでなく、廃業件数も押さえたうえで、K P Iの見直しを図る必要がある。
- ◎ 2次評価と同じではなく、「地方創生に効果があった」という評価にしてよろしいか。
(異議なし)

⑪ 町の環境を活かした再生可能エネルギーの地産地消等の可能性検討

・二宮町総合戦略評価委員会の評価「地方創生に効果があった」

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

- 施策の目標は「地球温暖化対策としてCO₂を削減する」ことにあると思うが、K P Iは起業支援策になっており、目標とK P Iの設定にずれがあるのではないか。

- 基本目標では、「しごとを生み出しやすい環境づくり」に重点をおいており、再生可能エネルギーの分野でも仕事を生み出す環境を整えることで、雇用の更なる拡大につなげることを狙いとしている。そのため、仕事を生み出しやすい環境という点では、新たなK P I「再生可能エネルギー事業に関する起業支援策の実現数」を設定することで、より実効性のあるものとなった。

◎ 2次評価と同じ評価でよろしいか。

(異議なし)

⑫ 身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出

・ 二宮町総合戦略評価委員会の評価「地方創生に効果があった」

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

○ オリーブ事業は、二宮ブランドで認定されたり、神奈川県が指定する「地域産業資源」にも位置付けられたりなど、前進しているため評価ができる。今後、その成果をもっとPRしていくべきである。

○ 商工会では、湘南オリーブの地域ブランド認定や新商品開発に向け取り組んでいるが、湘南オリーブに対する町の支援や発信力が弱くなっている。発展していくためには、行政の支援が重要である。

◎ 2次評価と同じ評価でよろしいか。

(異議なし)

(3) その他

次回の委員会については、11月12日(月)9時30分～としたい。今回の意見をまとめた上で、町への意見書を検討していく。

【以上】